

特集

鶴ヶ島のまちづくり

鶴ヶ島市では「第6次総合計画」を策定し、「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」を掲げ、今後10年間のまちづくりの方向性を示しました。

特集では①第6次総合計画の概要②令和2年度の当初予算をお伝えします。



現在、新型コロナウイルスが各地で猛威を振るっております。

市民の皆様におかれましては、国や県、市のホームページから最新情報を確認し、不確かな情報などに流されないよう、冷静な判断、行動をお願いいたします。

また、学校の休校や公共施設の休館、イベントの中止などにつきまして、市民の皆様にはご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

“うつさない・うつらない”ため、一人ひとりが出来ることとして「咳エチケット、こまめな手洗い、健康管理、不要不急の外出自粛」などの、基本的な感染防止対策の徹底に、市民、事業者、行政が一丸となって、取り組んでまいります。

鶴ヶ島市長 齊藤芳久

の ま ち つ る が し ま

問合先 政策推進課政策担当

「第6次総合計画」を策定しました

鶴

ヶ島市は、明治時代に鶴ヶ島村ができてから、他の自治体と合併することなく発展してきました。昭和後期の人口流入などによって、多彩な人が住むようになり、そこから様々な市民活動団体が生まれた『多彩な人と団体に恵まれたまち』です。

さらに、

南西部地域を中心に農地や樹林地、水辺などの武蔵野の原風景が残されています。2つのインターチェンジと3つの鉄道駅がある交通利便性をいかながらも、自然と調和した土地活用を進めてきた『身近な自然と調和した地の利があるまち』です。

「第6次総合計画」は、こうした「強み」をこの先も引き継ぎ、市に関わる誰もが、将来にわたり豊かな生活を送ることができるまちを目指し、策定しました。

子どもにやさしい まちづくり

未来を担う子どもたちのためには、子育てがしやすく、子ども自身も楽しめる環境が何よりも大切です。子育て世帯を中心とした若い世代に選ばれ、住み続けてもらうことはもちろん、子どもたちが一度市外へ出たとしても「将来、自分が子育てするときには、また鶴ヶ島に帰ってきたい」と思えるまちをつくります。

いつまでも健康 でいられるまちづくり

心身の健康は、何ものにも代えがたい大切なものです。住む人が健康でいることで、まちそのものが健康になります。人生100年時代といわれる中、いくつになっても元気で、生涯にわたり健康で暮らせるまちをつくります。

多様な働き方が 実現できるまちづくり

“しごと”は、生活の基盤を築き、社会とつながり、より良い暮らしを実現するために欠かすことができないものです。生活が多様化している中、求められる働き方も様々ですが、誰もが自分に合った働き方を実現できるまちをつくります。

第6次総合計画

し あ わ せ 共 感 安 心

3つの重点戦略

計画期間中、特に力を入れる3つの重点的な取組として「子どもにやさしいまちづくり」「いつまでも健康でいられるまちづくり」「多様な働き方が実現できるまちづくり」を掲げ、これらを一体的に進めながら、「しあわせ共感 安心のまち っるがしま」の実現を目指します。

計画の実行に際して、市に関わるすべての人が、お互いを尊重しながら、多様なかたちで取り組んでいくことが大切です。皆さん、未来の鶴ヶ島を一緒につくっていきましょう。

計画の策定にあたり、市民の皆さんをはじめ、市民活動団体、まちづくり審議会委員、市議会議員などの多くの方々からご意見・ご提案をいただき、ありがとうございました。計画書の全文は、市ホームページをご覧ください(発行は、夏頃を予定しています)。



まちの予算

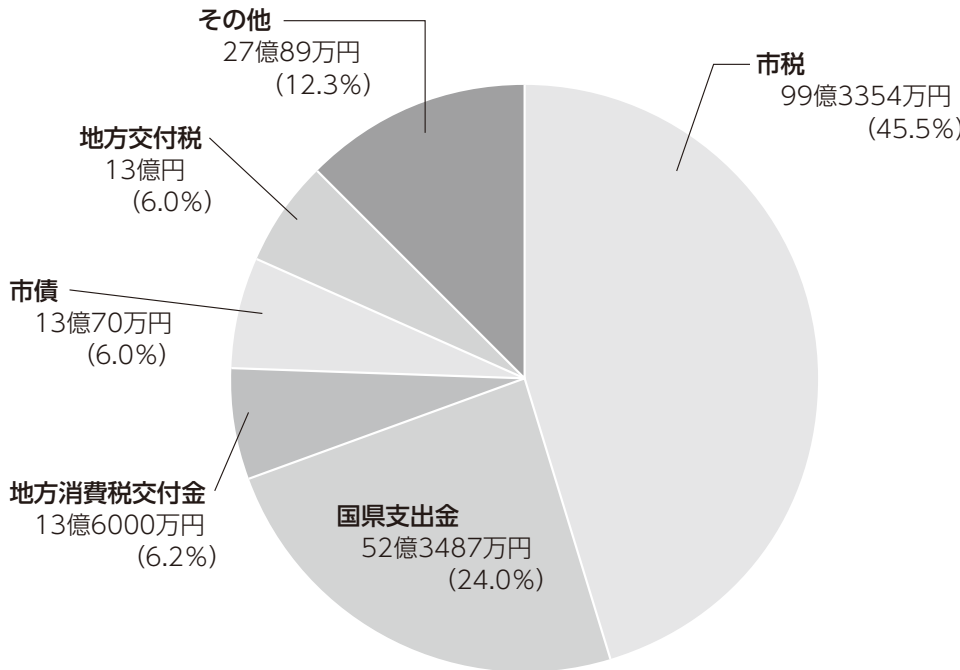
令和2年度予算と事業の概要

一般会計の総額は218億3000万円。前年度と比較して2億9000万円の増額、率にして1.3%の増となりました。

地方交付税などで財源を確保

歳入の根幹である市税については、前年度と比べ増額となる見込みであるものの、依然として地方交付税や臨時財政対策債、基金からの繰入金で、財源を確保する状況が続いています。

歳入



令和2年度の予算が決定しました。予算の概要と、各分野の主な事業について紹介します。

問合先 財政課財政担当

■市民1人当たりの歳出予算額は約31万2147円です

民生費	13万7756円
総務費	3万9547円
土木費	3万6733円
教育費	3万 852円
公債費	2万1835円
衛生費	1万8986円
消防費	1万5884円
商工費	5938円
その他	4616円

※ 令和2年1月1日現在の人口
6万9935人で算出

令和2年度の一般会計※予算は

218億3000万円

※ 福祉、教育、道路整備などの基礎的な行政サービスを行う会計です
(前年度比1.3%増)

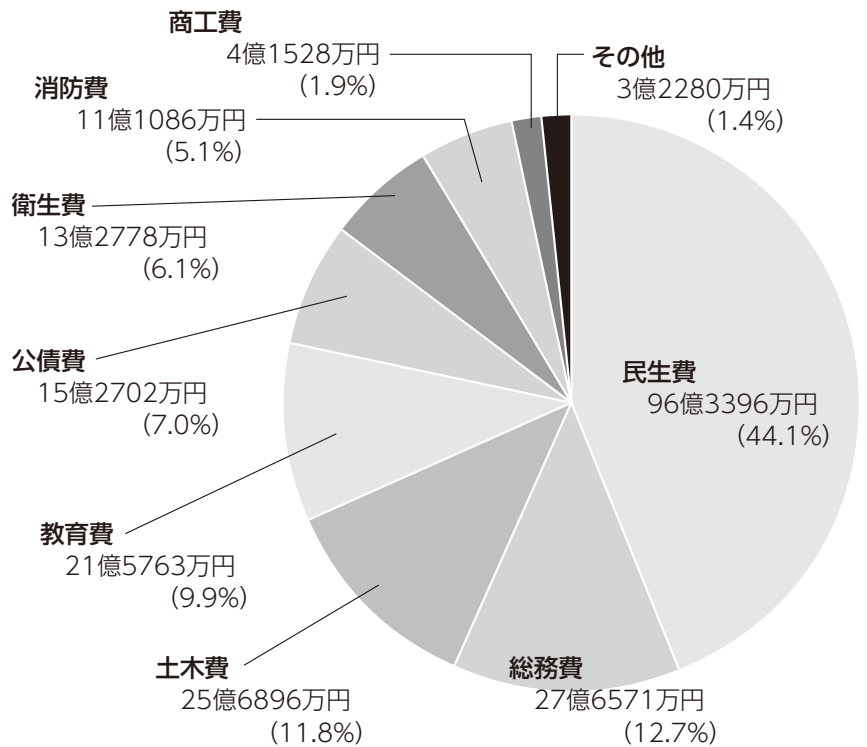
解説！財常用語

歳入	
市税	市民税、固定資産税などの 税収入
国県 支出金	特定の事業のために国・県 から支出されるお金
地方 消費税 交付金	県の地方消費税収入の中から 市に対して交付されるお金
市債	大きな事業などを行うために 市が借り入れるお金
地方 交付税	市の財政状況に応じて国から 交付されるお金

歳出	
民生費	子どもや高齢者、障害者など の福祉全般の事務・事業 に使うお金
総務費	住民窓口や課税徴収など 行政全般の事業に使うお金
土木費	道路、公園整備などに使う お金
教育費	学校運営や生涯学習など教育 全般に使うお金
公債費	借金を返済するために使う お金
衛生費	保健衛生や公害対策など安全 で衛生的な生活のために使う お金
消防費	消防や災害対策に使うお金
商工費	商工や観光の振興などに使う お金

過去最大の予算規模に
歳出においては、幼児教育・保育の無償化に伴う幼児教育・保育の無償化運営支援事業や介護保険特別会計繰出金など社会保障関連経費の増大のほか、中学校トイレ改修事業や西市民センター空調更新事業など公共施設の保全に要する経費、学童保育室建設事業（藤小学校区）や太田ヶ谷緑地保全事業など新たな公共施設の整備に要する経費の増大により、過去最大であった令和元年度の予算規模を上回りました。

歳出



特別会計 **129億2394万円**

特定の歳入・歳出をもって一般会計とは経理を別にする会計です。鶴ヶ島市は、5つの特別会計があります。

会計名	予算額	前年度比
国民健康保険	64億4684万円	-4.8%
後期高齢者医療	8億6064万円	15.2%
介護保険	50億3681万円	15.2%
一本松土地区画整理事業	2億1364万円	-29.5%
若葉駅西口土地区画整理事業	3億6602万円	-12.0%

※ 各予算額は、万の位で四捨五入をしているため、各項目の積み上げと合計が一致しない場合があります

会計別の予算額

区分	予算額	前年度比
一般会計	218億3000万円	1.3%
特別会計	129億2394万円	2.5%
合計	347億5394万円	1.8%

重点戦略事業の 概要と予算額

新 令和2年度新規事業

新 ※ 令和元年度補正予算で新規事業として計上した事業

重点戦略①子どもにやさしいまちづくり



新 児童館トイレ改修事業 414万円
市内児童館のうち、和式トイレのみが設置されている脚折児童館と大橋児童館のトイレの一部を洋式化します。また、子ども用便座の整備など、トイレ環境を改善することで、利用者の利便性向上を図ります。

新 ※ 学童保育室建設事業(藤小学校区) 5133万円
放課後の児童の健全な育成を推進するため、藤小学校敷地内に学童保育室を1棟新設し、学童保育室の運営規模の適正化を図ります。また、藤小学校の隣地にある既存の学童保育施設については、新設にあわせて閉鎖・解体するとともに借地を返還します。

新 ※ 中学校トイレ改修事業 1億8181万円
全中学校校舎のトイレの床を湿式から乾式に改修し、和式トイレの洋式化や車いす対応便器を設置するなどトイレの改修工事を実施し、生徒が快適な学校生活を送れるように努めます。

新 ※ 小・中学校体育館LED照明導入事業 4074万円
全小学校および中学校(藤中学校を除く)の体育館照明をLED化する設計および工事を行い、児童・生徒の学習環境の向上を図ります。

重点戦略②いつまでも健康でいられるまちづくり



健康長寿推進事業 3392万円
一般会計、国民健康保険特別会計および介護保険特別会計の健康長寿推進事業で、高齢者の保健事業と介護予防・フレイル対策を一体的に推進し、健康寿命の延伸を図ります。

地域医療体制整備事業 2806万円
市民が身近なところでいつでも適切な医療が受けられるよう、初期救急医療、第二次救急医療などの地域医療体制などの充実を図ります。超高齢社会における医療ニーズへの対応および安定的な救急医療の確保を図るため、市内の二次救急医療機関に対し、救急搬送患者の受け入れに要する費用の一部を補助します。

新 ※ 西市民センター空調更新事業 1億1459万円
複合施設である西市民センターの空調設備は、設置から17年が経過し、空調の冷房機能が低下しているため、施設利用者の健康面などを考慮し、更新工事を実施します。

新 太田ヶ谷緑地保全事業 5832万円
埼玉県による、圏央鶴ヶ島インターチェンジ東側土地地区画整理事業により整備される緑地が、令和2年度に市に移管される予定のため、必要な整備(トイレやベンチ、看板の設置)を行います。



重点戦略③多様な働き方が実現できるまちづくり



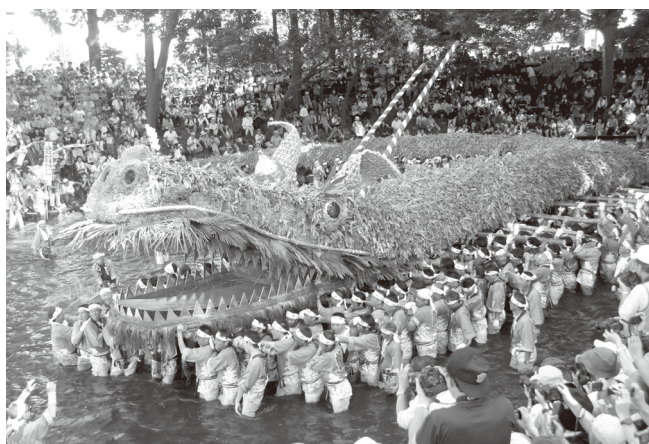
新 都市農業活性化推進事業 **359万円**
 新たな担い手となる新規就農者への支援を図るとともに、付加価値の高い農産物の生産を促進します。また消費地に近いという利点をいかした観光農業の推進を図り、農業の持続的発展を目指します。

新 鶴ヶ島駅周辺地区拠点整備構想策定事業 **1131万円**
 人びとの交流と地域の魅力の創出に向けて、市内企業と連携した拠点整備および鶴ヶ島駅周辺地区整備の構想を、令和2年度から3年度までの2年間で策定するものです。産学官連携を図りながら、整備構想を策定し、その構想を基に都市再生整備計画を一体で策定します。

都市計画道路整備事業 **8869万円**
 埼玉県による、圏央鶴ヶ島インターチェンジ東側土地区画整理事業と連動した都市計画道路の整備により、土地利用の促進および円滑な道路網の確保を図ります。

新 藤金地区都市計画変更事業 **208万円**
 藤金土地区画整理事業について、地権者や地域住民の意見を聴きながら見直しを行い、藤金地区のまちづくりに向けて、関連する都市計画の変更などを行います。

その他の重点事業



新 脚折雨乞支援事業 **1135万円**
 国選択無形民俗文化財、市指定無形文化財である「脚折雨乞」の4年に一度の開催に合わせ、「脚折雨乞」の魅力や意義を市内外にPRするとともに、「脚折雨乞」の保護保存および後世への継承支援を行います。

新 雨乞いのまち鶴ヶ島活性化事業 **562万円**
 鶴ヶ島の地域資源である「脚折雨乞」を核とした住民主体のまちづくりや地域の活性化を目指すとともに、郷土意識の醸成および地域産業の振興を図ります。

新 オリピック聖火リレー実施事業 **332万円**
 埼玉県など関係機関と連携しながら、東京2020オリンピック聖火リレーを円滑に実施し、大会機運を醸成します。

農業交流センター運営事業 **2659万円**
 農業交流センターの多様化する市民ニーズに効果的、効率的に対応するため、管理運営を指定管理者に委託することにより、民間のノウハウを活用し市民サービスの向上を図ります。

新 住民異動等窓口業務委託事業 **1276万円**
 行政サービスの維持・向上および市の業務効率化を図るため、市民課の住民異動、証明書発行などの窓口業務委託を実施します(12月から予定)。